

A0301	マヤ34-2002 近代化更新改造車	予価:6,380円(本体価格5,800円)
		JANコード:103432 カートン内入数:24

A0305	マヤ34-2005 京都総合運転所	予価:6,160円(本体価格5,600円)
		JANコード:802632 カートン内入数:24

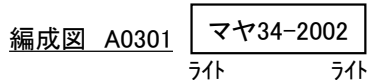
商品形態	Nゲージ塗装済完成品(素材:ABS樹脂製 対象年齢:14歳以上 単品プラケース入り)
実車	マヤ34は列車が走行中の軌道の状態を測定するための「軌道試験車」として、1959年から1981年にかけて10両が製造されました。自車給電用のディーゼル発電機を装備し、双頭連結器によって様々な車両に連結が可能となっています。外観上では走行用台車の間に測定用の台車を持つ事や、車体側面に出窓が設置されたことが特徴です。 2002番はJR東日本の所属車で、1992年に光学式・磁気式2種類の非接触検測方式に改造されると共に、白と水色を基調とした車体色に改められました。 2005番は1967年に製造され、国鉄民営化後はJR西日本に継承された車両で、晩年はHゴムが黒色化されていました。
商品概要	・マイクロエース客車シリーズの更なる充実 ・テールライト点灯(ON-OFFスイッチ付)

水色エコーデザインの白いマヤ



- A0300(2012年1月出荷)を基にしたバリエーション製品
 - 「白マヤ」と呼ばれて親しまれていたマヤ34-2002の近代化更新改造後の姿
 - 各部の仕上げについて再検証を行いよりリアルな姿に
 - 検査表記が「4-4」だった更新改造当初、1990年代前半の姿
 - A3290 クモヤ143 2両セットとの組み合わせが好適
- ※走行には別途機関車が必要です

JR東日本商品化許諾済

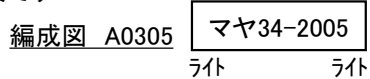


青15号に黄帯の伝統的事業用車スタイル



- A0304(2012年1月出荷)を基にしたバリエーション製品
 - 京都総合運転所に所属し、西日本各地の軌道検測に使用されていたマヤ34-2005をセレクト
 - 2-4位側側面中央の機器用ルーバーが小窓に改造された後の車体を新規作成
 - 所属表記は「京キト」、各部Hゴムが黒色化された晩年の姿
- ※走行には別途機関車が必要です

JR西日本商品化許諾済



オプション	幅広室内灯:G0001/G0002/G0003/G0004, マイクロカプラー密連・黒:F0001/自連・黒:F0003
--------------	--

付属品	なし
------------	----